都市基盤整備公団・管理業務部供給計画室長 間宮敏明さん（昭和47・経済）

昨年6月から都市基盤整備公団の販売業務を総括管理する部門を担当している。入職31年。「信頼を築く」をモットーに「生活者の側に立った『住』のより良いサービスの提供を」と話す。

名水百選に選ばれ「きれいな水の町」として知られる城下町、福井県大野市の出身。県立大野高から68年、専大経済学部に入学した。生田の急坂を、汗をかきながら上って通学した毎日。「まじめな学生だったと思います」。印象に残った授業は当時、学生の間で単位を取るのが難しいと言われた「近代経済学」。「伝統的経済学から変わって、失業問題に対する政策指針を明示出来る経済学として、有効需要の原理を中心におくケインズの『一般理論』に大変興味を持ちました」。

授業が終われば書店の店員、水道工事などのアルバイトに精を出した。小田急線経堂にある春風学寮に入寮。他大学生との交流も思い出に残る。日曜日には道正安治郎寮長のもとで、それまで無縁だった聖書を読む講義を受けた。道正先生ご夫妻の厳しさの中にも愛情のある教えは思い出深い。

「一生懸命仕送りをしてくれた両親への感謝」と学生時代のそんな一コマ一コマが現在の糧になった。「専門分野の知識はもちろん、『なぜなのか？』を考える習慣を身につけ、ものの考え方が出来るよう学ぶことが大事だと思います」

72年、住宅政策の実施機関として重要な役割を担う日本住宅公団に就職。同公団はその後、住宅・都市整備公団、現在の都市基盤整備公団と名称を変え、発足時（55年）の賃貸住宅の供給・管理から市街地のインフラ整備まで、時代と共にその役割が変遷。04年には、独立行政法人「都市再生機構」として生まれ変わり、都市再生に民間を誘導する業務が重点となる。

「社会性、変化への対応。満足して立ち止まらない。今後もそんな姿勢でいきたいです」

【ニュース専修8月号9面】

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.